

2023年度 事業者自己評価表

放課後等デイサービス

		チェック項目	工夫、取り組み、改善点など
環境 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	お子様の個別及び集団活動スペースを設定し、一人一人のスペースを十分確保できる定員にしています。
	2	職員の配置数は適切であるか	お子様2人に職員1名以上を配置しています。お子様のニーズに合わせて1対1での対応もしています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮がなされているか	こかげは2階にあります。エレベーターが設置されています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	適宜全職員が参加する会議を設け、支援内容等についての情報共有を図っています。さらに今後はPDCAサイクルを計画的に行っていきます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	年1回、事業所から保護者の方向けのアンケートを実施し、保護者の方からのご意見を踏まえて次年度の計画を立てています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	年1回、事業所評価を行っています。評価の結果及び改善点等はホームページで公表しています
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	第三者評価は行っていません。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	障害特性、構造化、PEGSなどについての内部研修の実施、及び外部研修受講により、支援の向上に努めています。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	日々の支援の中でお子様のアセスメントを実施しています。また、保護者の方との面談、フィードバックの時間の中でアセスメントを実施し、課題解決に向けた計画を作成しています。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	アセスメントシートを使用していますが、アセスメントツールの活用が今後の課題です。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	児童発達支援管理責任者とプログラム立案担当職員を中心に、スタッフ間で話し合いながら活動プログラムの検討をしています。
	12	活動プログラムが固定化されないよう工夫されているか	お子様の経験を広げるために、調理メニュー、制作メニューなどに変化をつけています。一方でASD(自閉症スペクトラム)のお子様が多いため、大幅な変更による混乱が生じないよう、スケジュールはあえて変更を少なくしています。また、変更がある場合は事前にスケジュールで伝えていきます。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめて細やかに設定して支援しているか	お子様の過ごされる時間に応じて、プログラムや個別課題を設定し、個々のスケジュールで伝えていきます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成しているか	集団活動と個別活動を組み合わせたプログラムを提供しています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	当日の担当者は個別ファイルを通して前回までのお子様の様子や引継ぎ事項を確認しています。また、その日の活動について職員間で打ち合わせを実施し、必要な情報を共有しています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	支援終了後の打ち合わせを全職員では行ってはませんが、必要に応じて振り返りから改善策の話し合いを実施しています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	個別の記録用紙に記入し、個別支援計画に沿った支援内容を中心に記録をしています。支援の振り返りと改善に活用しています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	半年に1回、モニタリングを実施し、計画の見直しの検討を行っています。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	「自立支援」「創作活動」「余暇」などを組み合わせる集団及び個別の支援を行っています。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	カンファレンス等が行われる際には、児童発達支援管理責任者が参加しています。

関係者や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時間の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	連絡・相談を行い、必要に応じてお子様の担任や地域支援担当職員へ連絡を取っています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	必要に応じて連絡、情報共有を行っています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	小学生までが対象の事業所であるため実施していません。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	鶴見区障害児関係機関連絡会へ参加し、必要に応じて基幹相談支援センターや療育センターと連携をしています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	現在、交流の機会はありません。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	鶴見区障害児関係機関連絡会へ参加しています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	保護者の方による送迎の際やフィードバックの時間に保護者の方とお話する時間を設けています。また必要に応じて、電話でお伝えしたりお話を伺ったりしています。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	実施していません。
保護者への説明責任等	30	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	契約面談時に説明しています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言を支援を行っているか	保護者の方による送迎の際やフィードバックの時間に保護者の方とお話する時間を設けています。また必要に応じて、面談を行っています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	父母会は現在行っておりません。今後も保護者勉強会(懇談会)を実施していきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	相談や申入れがあった場合は、事業所内で対応を検討しますが、相談内容によっては法人本部へ報告し迅速な対応を行うようにしています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	会報を中心に活動の内容を保護者の方にお伝えしています。月の予定表は、ホームページ上に掲載しています。
	35	個人情報に十分注意しているか	「個人情報使用同意書」や「写真使用承諾書」などで確認を取った上で、情報の管理、取り扱いにも注意を払っています。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のため配慮をしているか	視覚支援を中心に、一人一人が理解できる方法で伝えています。保護者の方にも連絡事項等わかりやすい言葉や表現を使ってお伝えしています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	地域住民を招くプログラムを行っていません。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	各マニュアルを策定していますが、職員間の共有が不十分のため、会議を通じて全ての職員が把握できるようにしていきます。保護者の方への周知も不十分と感じていますので、周知の方法を検討していきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	年に2回、全曜日「火災」「地震」想定避難訓練を行っています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	虐待や身体拘束について年1回は職員研修を実施しています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	やむを得ず身体拘束を行う必要がある場面の検討を行い、決定にあたっては複数の職員の意見を取り入れ、保護者の方とお子様説明をしていきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	アナフィラキシーショックに対しては、医師の指示書のもと、必要に応じて対応を行います。職員は、法人内看護師の講習を受講するようにはしていますが、受講できていない職員がいることから、再度研修機会を設定します。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	ヒヤリハット事例は記録として残し、会議を通して職員間で共有しています。